

「地域別データ分析」の結果について

1 事業概要

(1) 目的

本市の健康寿命の延伸に向けた科学的な根拠に基づく新たな施策・事業の展開（EBPMの推進）に活用するとともに、市民一人ひとりの主体的な健康づくりへの取組につなげるため、市民の健康状態に関する市域全体や地域別の特性・課題を明らかにする。

(2) 分析の特徴

- ・ 保健福祉分野のほか交通や都市整備など、分野横断的にデータを収集・分析
- ・ 本市独自の「健康度」の指標を設定し、連合自治会圏域（39地区）ごとの健康状態を数値化

〔※ 国の「健康スコアリング」の考え方を参考に、特定健診の結果や介護認定率などを用いてライフステージごと（年代別）に3つの健康度を算出〕

- ・ 相関係数を用いて「健康度」と関連する事項を広く解析
- ・ 市域全体及び連合自治会圏域（39地区）ごとの特徴について、図やグラフを用いて「見える化」した分析ブックを作成

(3) 分析に用いたデータ

- ・ 市内保有データ（人口動態、公共交通、生活利便施設等）
- ・ 国保データベース（KDB）（健診データ、医療・介護レセプトデータ）
- ・ 市民アンケート調査（生活習慣、運動習慣、地域活動等）

2 主な分析結果

(1) 地域資源・生活環境

- ・ 「公共交通の利用割合」が高い地区ほど、壮年期（40～64歳）の健康度が高い傾向
- ・ 「平均歩数」が多い地区ほど、壮年期の健康度が高い傾向
- ・ 歩くことは、「1人当たり医療費」や、高齢者の「運動機能低下割合」とも相関あり

⇒ 今後の施策としては、市民が、気軽に健康づくりに取り組むことができるよう、歩くことの重要性に関する周知・啓発に加え、より身近な地域で運動できる環境づくりや、自家用車に頼らず歩いて暮らせるまちづくりに向けた取組などを検討していく。

(2) 健診・医療・介護

- ・ 「かかりつけ歯科医」を持っている高齢者の割合が高い地区ほど、自身の歯が20本以上ある高齢者の割合が高い傾向
- ・ 「歯の本数」や「口腔機能低下リスク」は、高齢期（65歳以上）の健康度とも相関あり

⇒ 今後の施策としては、生涯にわたり歯・口腔の健康を保つことができるよう、口腔ケアの重要性に関する普及啓発に加え、かかりつけ歯科医をもつことの普及啓発など歯科口腔保健を推進するための環境整備等の取組などを検討していく。

(3) 生活習慣・社会参加

- ・ 「ソーシャルキャピタル（社会参加）」の割合が高い地区ほど、高齢期の健康度が高い傾向
- ・ 介護予防のための「通いの場」への参加割合が高い地区ほど、介護認定につながる恐れのある「転倒リスク」が低い傾向

⇒ 今後の施策としては、高齢者が地域と関わりながら、健康づくり・介護予防に取り組めるよう、第2層協議体をはじめとする地域活動団体への活動支援など、地域共生社会を見据えた地域づくりに向けた支援や、高齢者を取り巻く環境へのアプローチ（役割の創出、社会参加の実現など）に加え、外出しやすい・移動しやすい環境の整備などを検討していく。

3 地域別データ分析ブックについて 別紙参照

以下の構成により作成

- 1 全市域編・・・「健康度」と関連する事項を解析し、それらの事項に係る国・県との比較や、市内連合自治会圏域（39地区）間の比較を掲載
- 2 地区別編・・・連合自治会圏域（39地区）ごとに、相関関係のあった事項等について、全市と当該地区の比較を中心に掲載
- 3 評価・・・外部アドバイザー（京都府立医科大学 上原教授）及び宇都宮市保健所長による全体評価を掲載

4 今後の活用の方向性

現在実施している事業の効果検証や、地域共生社会の実現に向けたきめ細かな施策展開に活用するとともに、EBPMを推進する中で、多様な分野での活用も検討していく。

また、地域への提示により健康づくりや介護予防活動等の市民の主体的な取組につなげていくとともに、市ホームページへの掲載等により民間企業等における活用を促進していく。

- 例)
- ・ 健康づくり推進員と連携した各地域の特徴を踏まえた健康づくり活動
 - ・ 第2層協議体の場などを活用した住民主体の地域づくり など